

島皆夫氏)・「元岡・桑原遺跡群の調査と出土木簡」(吉留秀敏氏・坂上康俊氏)の2件の木簡出土事例報告の他、71に上る遺跡の古代から近代までの2001年新出土木簡情報も報告されました。

木簡の出土は全国で20万点を越えました。その研究において果たす奈文研と木簡学会の役割は、今後ますます大きくなることでしょう。

(平城宮跡発掘調査部)

▲ 平城宮跡第一次大極殿正殿復元工事

「平城宮跡第一次大極殿正殿復元工事」が、文部科学省文教施設部から発注されました。この工事は平城遷都1300年に当たる2010年の完成を目指して進めているものです。

奈文研はこの事業に協力しております。

(平城宮跡発掘調査部)



第一次大極殿正殿復元予定地

▲ 刊行物

『奈良文化財研究所紀要2001』の刊行

独立行政法人としての再出発にともない、毎年刊行してきた『奈良国立文化財研究所年報』も、体裁を一新することになりました。『奈良文化財研究所紀要』として新たなスタートを切ったその最初の号が、刊行の運びとなっています。

従来の3分冊構成を改めて一書にまとめ、1年間の調査と研究の成果を、よりわかりやすくご覧いただけるように努めました。内容はⅠ～Ⅲの3部からなり、Ⅰが研究報告、Ⅱは飛鳥藤原宮跡発掘調査部、Ⅲは平城宮跡発掘調査部の発掘概要報告です。

表紙は比較的シンプルなデザインとし、東洋文明

から生まれた明朝体と、西洋文明に源流をもつゴシック体を組み合わせました。また、イメージとして発掘区を示す四角形と、研究をあらわす円形を配したほか、下方には若草山を表現しています。



紀要の表紙

『平城宮発掘調査出土木簡概報(36)』の刊行

平城宮跡発掘調査部史料調査室では、発掘調査で出土した主な木簡の速報として『平城宮発掘調査出土木簡概報』を編集してきています。先頃その36号を発行しました。昨年の第315・316次調査出土の主要な木簡を中心に、62点について釈文・法量・型式番号といった基礎的なデータを掲載しています。収録木簡には、平城宮跡



資料館の発掘速報展で 木簡概報の巻頭写真より
話題となり、新聞報道もされた「訛り」を反映したかとも思われる「難波津の歌」の木簡などがあります。その他、昨年発行の35号からの継続で、『平城宮木簡Ⅰ』の釈文の補訂を、木簡番号101～200について収録しました。また、本号から、巻頭の写真の大幅増や、巻頭図版での赤外線デジタル画像の掲載、概報毎の木簡通し番号の付与など、より一層の利用の便宜を図っています。積極的な利用が期待されます。

(平城宮跡発掘調査部)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK